

授業概要

わが国において新産業の創出や産業の活性化の担い手として近年ベンチャー企業が注目されるようになってきています。その理由としては、戦後の日本経済の発展を振り返ってみると、その担い手がベンチャー企業と呼ぶ企業、その中核にあったからです。たとえば、ソニー、パナソニック、シャープをはじめ現代では大企業となっている企業も歴史的に見ればベンチャー企業である、いえます。そこで授業では、そのような日本のベンチャー企業だけではなく、グーグル、アマゾン、アリババといった海外のベンチャー企業も取り上げながら、ベンチャー企業の特徴やその役割を学び、現代におけるその意義を明らかにして行く予定です。

特に、創業者（起業家）がいかに創業したのか、また、その企業がどのようにして発展したのかを中心に講義をしてゆきます。

授業計画

第 1 回	講義のねらいと進め方(ベンチャー企業と現代経済)
第 2 回	ベンチャー企業とは何か?定義とその歴史
第 3 回	ベンチャー企業と中小企業の違い
第 4 回	日本の戦後の経済発展とベンチャー企業
第 5 回	ベンチャー企業と起業家の役割
第 6 回	成功する起業家の特徴
第 7 回	ベンチャー企業の成長マネジメント 発展段階とその特徴
第 8 回	パナソニック(松下幸之助)
第 9 回	シャープ(早川徳次)
第 10 回	ソニー(井深大)
第 11 回	セブンイレブン(鈴木敏文)
第 12 回	アマゾン(ジェフ・ベゾス)
第 13 回	アリババ(ジャック・マー)
第 14 回	グーグル(ラリー・ページ、セルゲイ・ブリン・エリック・シュミット)
第 15 回	ベンチャー企業と 21 世紀
第 16 回	定期試験

到達目標

今後のわが国の経済・産業活性化の担い手となるベンチャー企業の特徴と意義についての理解を基本的理論およびさまざまな事例の研究を通じて身につけること

履修上の注意

経営戦略、マーケティング、消費者行動、マネジメント、経営史などの領域にも関連する内容となります。受講者の主体的な学習が不可欠です。授業では説明のために板書をしますので、ノートと筆記用具は必ず持ってきてください。

予習・復習

配布された資料や図書館・インターネットなどを活用し、事前に学習しておくこと、また、学習した内容を各自まとめ・理解するように、事前事後の主体的な行動が不可欠です

評価方法

受講態度(10%)、レポート(30%)および定期テスト(60%)にもとづく総合評価。

テキスト

特になし。必要に応じてコピーを配布します。